



昔の風景を伝える

おかやまの 町並み



ももっち・うらっち
と一緒に
たずねてみよう！



岡山県マスコット ももっち・うらっち

はじめに

本ガイドブックのシリーズでは、岡山県内の様々な文化財を紹介してきましたが、今回は、町並みや景観^{しょうかい}を紹介します。文化財の種別では、「伝統的建造物群」「文化的景観」がこれに当たります。

昭和20(1945)年に終わった第2次世界大戦後、日本は急速な復興と経済成長を遂げました。その反面、伝統的な建物が急速に失われ、市街地においても、農村部においても、それまで当たり前のように存在した景観が失われていきました。その危機感から、昭和50(1975)年の文化財保護法改正で伝統的建造物群保存地区の制度(伝建制度)が、平成16(2004)年の改正で文化的景観の制度が設けられ、それらを保護し活用する取り組みを国が後押しするようになりました。

伝統的建造物群とは、「周囲の環境^{かんきょう}と一体をなして歴史的風致^{ふうち}を形成している伝統的な建造物群で価値の高いもの」と定められている文化財です。市町村や市町村教育委員会が、法律や条例に基づいて決定したものを「伝統的建造物群保存地区」(伝建地区)といいます。そして、国が特に価値が高いと判断して選定したものを「重要伝統的建造物群保存地区」といいます。岡山県内では現在3か所が選定されています。(5、7、11ページ参照)

また、文化的景観とは、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」と規定され、国が特に重要なものとして選定したものを「重要文化的景観」といいます。

町並みや景観を保存していくためには、多くの人の力が必要です。自治体が町並みを守るという方針を持っていなければ、保存していくことはできませんし、地域に住んでいるみなさんの理解と協力は欠くことができません。

今回は、岡山県内の町並み・景観を紹介し、それらの価値を再認識し、大切に残していくべき身近な文化財として理解を深めていただきたいと思います。

港町 =みなとまち=

たましま

玉島

(倉敷市玉島阿賀崎、
玉島中央町)

江戸時代、瀬戸内海に面し高梁川の河口に位置する玉島は、備中松山藩の外港として栄えた港町です。羽黒神社と住吉神社の間に築かれた潮止め堤防の上に多くの間屋が集まり、新町通りになり、その南側が港として整備されて発展しました。羽黒神社の東側が玉島と高梁川を結んだ高瀬通しの終点でした。新町やその西側にある仲買町に残る古い町並みがかつての繁栄を語り、岡山県の町並み保存地区に指定されています。



周辺図



しもついで

下津井

(倉敷市下津井)

下津井は、江戸時代初めに下津井城が廃城になると、城下町としての役割を失いました。しかし、その後は北海道や北日本と上方(大坂、京都)を結ぶ西廻り航路(海運)の廻(回)船や四国へ渡る金毘羅船などが立ち寄る港町として、また漁港として大いに栄えました。



港に平行して東西に走る旧道沿いには古い町並みが残っています。「むかし下津井廻船問屋」は、明治時代まで使われていた廻船問屋の建物を利用して整備された資料館で、食事などをすることもできます。岡山県の町並み保存地区に指定されています。

用語解説



高瀬通し…高梁川からの水路を整備し、高瀬舟(10ページ参照)の運行を可能にしたもの
廻(回)船…商品売って回る荷船のこと

金比羅船…讃岐(香川県)の金毘羅宮(金刀比羅宮)への参詣客を乗せて大坂と讃岐の間を往来した客船

町並み保存地区…歴史的町並みや史跡等をまちづくりの中に生かして地域づくりを図るために指定されたもの

周辺図





旧矢掛本陣石井家住宅

江戸時代の山陽道には50余りの宿駅があり、矢掛は宿駅に発達した宿場町の一つです。宿駅の主な役割は、幕府役人や公的な荷物・手紙を宿駅から宿駅へ継ぎ送ったり、参勤交代の大名に宿舎を提供したりすることで、それに伴って宿場町には大名などが宿泊する本陣や脇本陣が置かれました。

矢掛宿には、本陣をつとめた石井家と脇本陣をつとめた高草家の建物(いずれも国指定重要文化財)が残っており、宿場町の風情が感じられます。本陣・脇本陣が往時の姿を残し、ともに国の重要文化財の指定を受けているのは全国でも矢掛だけで、岡山県の町並み保存地区にも指定されています。

用語解説

山陽道…京都と博多を結ぶ街道は、江戸時代には中国路、西国街道、中国街道などと呼ばれました。

宿 駅…街道沿いにおかれた人馬の中継ぎをする施設

参勤交代…江戸時代、幕府が大名に対して、一定期間ごとに江戸と国元(領国)に住むように義務づけた制度



周辺図



おおはらふるまち

大原古町 (美作市古町)

いなば 因幡国 (現在の鳥取県東部) と はりま 播磨国 (現在の兵庫県南西部) を結ぶ因幡街道が通る大原古町は、江戸時代には小原宿と呼ばれ、鳥取藩主池田家が参勤交代の際に宿泊地として利用しました。江戸時代に度々大きな火災が起っていますが、本陣、脇本陣が残るなど、かつての町並みを見ることができます。現在残る本陣の建物は、寛政年間(1789~1801年)に建てられたものと考えられています。脇本陣は、文政8(1825)年に降に建てられたもので、小原宿唯一の長屋門を持つ建物です。岡山県の町並み保存地区に指定されています。



周辺図



しんじょう

新庄 (真庭郡新庄村)

岡山県の町並み保存地区に指定されている新庄は現在、日露戦争を記念して植えられた「がいせん桜」が有名で、多くの観光客でにぎわっています。江戸時代には備中国と出雲国(現在の島根県東部)を結ぶ出雲往来の宿場町として栄え、本陣を松江藩とその支藩広島藩が利用しました。また、この地域でさかんであった「たたら製鉄」で生産された鉄の集積地でもありました。脇本陣木代家(村指定重要文化財)は江戸時代末期の建物で、江戸時代の風情を伝えています。



周辺図



用語解説



日露戦争…明治37(1904)年から翌年にかけて日本とロシアの間で行われた戦争
 支藩…大名の本家の当主が藩主である本藩に対して、分家の者が藩主である藩
 たたら製鉄…砂鉄と木炭を用いて江戸時代に行われた製鉄法のこと

くらしき し くらしき かわはん
倉敷市倉敷川畔

(倉敷市阿知、中央、本町、東町)



本町通り

岡山県を代表する観光地の一つ、倉敷美観地区は、^{しらかべ}白壁の町並みや倉敷川沿いの^{やなぎ}柳並木、そして明治時代以降に建てられた洋風建築が見事に調和した景観が多くの観光客を魅了しています。

この周辺は、室町時代末から江戸時代にかけて^{しんでんかいはつ}新田開発がさかに行われ、物資輸送の水運に倉敷川が利用されたことから、新田地帯の中心地として発展しました。ちなみに倉敷というのは、^{ねんぐまい}年貢米などを運ぶ際に、一時的に保管する倉(土蔵)が置かれた場所にしばしば残っている地名で、県内では他に美作市林野も以前「倉敷」と呼ばれていました。江戸時代の大半は幕府領であり、^{だいかんしよ}代官所が置かれていました。現在、倉敷アイビースクエアがある場所が代官所の跡地です。

倉敷の^{まちや}町家の特徴としては、建物外部の柱や窓枠などを白壁で塗りこめた^{ぬりやづくり}塗屋造や倉敷窓と呼ばれる^{こうしよまど}格子窓などがあげられます。これらの特徴的な建造物が雁木など水運の歴史を物語る川畔とと





旧大原家住宅

もに良く残され、大原美術館、倉敷館(旧倉敷町役場)など洋風建築も調和している倉敷の町並みは、「倉敷市倉敷川畔重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、伝統的建造物群保存地区(伝建地区)の背景を含めた景観保全が図られており、その周辺も倉敷市によって美観地区として景観が守られています。

伝建地区内には、国指定重要文化財の旧大原家住宅と井上家住宅、市指定重要文化財の楠戸家住宅と倉敷館があるほか、国登録有形文化財の楠戸家住宅米蔵ほか、倉紡記念館、児島虎次郎記念館、中国銀行倉敷本町支店があります。また伝建地区外では、大橋家住宅が国の重要文化財に指定され、若竹の園保育園舎事務室棟・幼児保育南棟が国登録有形文化財になっています。

用語解説

年貢米…年貢(税)として納められた米

幕府領…江戸幕府が役人(代官)を置き、直接支配した土地

町家…民家のうち、町を形成しているものを総称して町家(町屋とも書きます)と呼びます。

倉敷窓…防火用の土塗りの扉が付いた格子窓

雁木…船着場に降りるために設けられた階段



つ やま し じょうとう
津山市城東

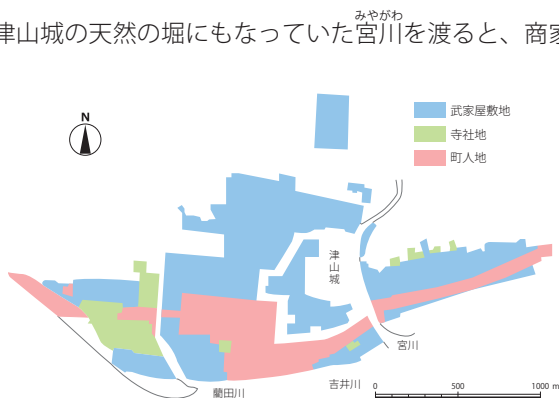
(津山市橋本町、林田町、勝間田町、中之町、西新町、東新町)



津山市付近は、古代から美作地域の中心地でしたが、現在の市街地は、江戸時代に津山城が築かれて発展した城下町が基礎となっています。津山城の堀の内側には武家地として上級家臣の屋敷が置かれ、そのほか、町の北側と南側にも武家地がありました。城の西側は武家地のほか、寺院や神社が多い寺社地でした。城下町南側の町人地に出雲往来が東西に走っています。

津山城下の出雲往来を東へ進み、津山城の天然の堀にもなっていた宮川を渡ると、商家が続く町並みが約1キロメートル続いており、「津山市城東重要伝統的建造物群保存地区」に選定されているほか、城の西側と北側には、歴史まちづくり法に基づいた重点地区があります。

伝建地区西部にある旧荻田家住宅は、城下町を代表する商家の住宅として国の重要文化財に指定されています。荻田家は城下町最大規模の商家で、江戸時代中期に酒



津山城下町の町割り



旧 荻 田 家 住 宅

造業を始めました。そのほか、伝建地区内では、幕末に活躍した洋学者・医師であった筑作阮甫みづくりけんぽの旧宅(国史跡)が公開されているほか、城東むかし町家(旧梶村家住宅 国登録有形文化財)や旧梶村氏庭園(国登録記念物)、津山ゆかりの洋学者の資料を展示している津山洋学資料館もあります。また、町家を復元整備した休憩所である作州城東屋敷のだんじり展示館では、津山だんじり(県指定重要有形民俗文化財)を見ることができます。

武家地・寺社地・町人地…城下町における土地利用について、武家の住宅用地が割り当てられた土地区画が武家地、商人・職人などの町人の居住地として割り当てられたのが町人地、寺社の用地とされたのが寺社地です。

歴史まちづくり法…正式には「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」といいます。歴史的風致(歴史上価値の高い建物やその周辺市街地からなる良好な環境のこと)を将来に残すための取組みを国が支援する制度です。

用語解説



石火矢町 (高梁市石火矢町)



現在の高梁市街地は、備中松山城の城下町として発展しました。小堀氏が在城した幕府領の時期から、池田氏、水谷氏が治めた時期にかけての江戸時代前期、高梁川沿いの南北に細長い盆地に城下町は整備されました。城下を通る松山往来沿いに町人地、その東の山側に主に武家地が配置されています。

石火矢町は、御根小屋(藩主の住まいと政治の場を兼ねた施設 現在岡山県立高梁高等学校がある場所)の南に隣接する武家地で、土塀が良く残る景観は、当時の武家地の面影を今に伝えてくれています。旧埴原家住宅(市指定重要文化財)と旧折井家住宅が、武家屋敷として一般公開されています。

石火矢町地区と、かつては職人町であった紺屋川周辺の紺屋町地区が岡山県のふるさと村に指定されています。また備中松山城跡と、その城下町一帯は歴史まちづくり法(8ページ参照)に基づく重点地区となっています。

用語解説

松山往来…山陽道の板倉宿(岡山市北区吉備津にあった宿駅)で北へ分かれ、松山城下へ至る街道
ふるさと村…古くからのすぐれた風物が残る県内の山村や漁村などを、岡山県がふるさと村として指定し、その保存と整備をはかったもの



周辺図



かつやま

勝山

(真庭市勝山)

勝山城の城下町であった勝山は、出雲往来の要となる地であるとともに、旭川最上流にある高瀬舟の船着場としても栄えた町です。商家や武家屋敷が残る町並みに加え、近年は建物それぞれの軒先にのれんが掲げられ、のれんのある町並みが有名になりました。岡山県の町並み保存地区に指定されています。



用語解説

高瀬舟…河川交通に用いられた船で、特に江戸時代に各地で発達しました。

周辺図



あしもり

足守

(岡山市北区足守)

足守は、豊臣秀吉の正室北政所の兄木下家定に始まる足守藩の陣屋が置かれた陣屋町として、足守川の西側を中心に形成されました。町の中を備中国と伯耆国(鳥取県西部)を結ぶ大山道が通っています。町の北西部(岡山市立足守小学校の隣)に藩主^{藩主}の居館であった足守藩主木下家屋形構跡(市指定史跡)があり、その周辺に武家屋敷が配置されていたと考えられ、旧足守藩侍屋敷遺構(県指定重要文化財)が当時の面影を感じさせてくれます。町の北端には大名庭園の近水園(県指定名勝)があるほか、この周辺には木下利玄生家や緒方洪庵誕生地(いずれも県指定史跡)もあります。岡山県の町並み保存地区に指定されています。



周辺図





写真提供: 高梁市

吹屋は、高梁市と新見市の境界に近い山間部に位置する鉾山町で、銅とベンガラ^{びんご}の生産で栄えました。また、備後国(現在の広島県東部)北部の東城(広島県庄原市)から吹屋^{おついで}を通じて成羽(高梁市)を結ぶ街道を吹屋往来と呼んでいましたが、吹屋は鉄や米などの物資輸送の中継地としての役割も果たしていました。

銅山の経営は、江戸時代前期には大坂の住友家が、中期以降は地元の大塚家^{おおくさ}があたり、明治時代になると岩崎弥太郎^{いわさき や たろう}が近代的な経営を行い、最盛期^{もとの}を迎えました。銅鉾脈の近くでは硫化鉄鉾^{りゅうかてつこう}が産出されるため、これを利用して良質なベンガラが生産されるようになり

用語解説

ベンガラ…弁柄、紅殻とも書きます。酸化第二鉄を主な発色成分とする赤色顔料のこと

住友家…江戸時代に各地で銅山を経営し財をなした豪商で、屋号は泉屋岩崎弥太郎…明治時代初期の実業家で、のちの三菱財閥の基礎を築いた人物
土佐藩の下級武士出身

近代…日本では、明治時代から昭和時代前半期(第2次世界大戦終結まで)を指します。





旧片山家住宅

ました。銅山は昭和6(1931)年に閉山しました(第2次世界大戦後再開し、最終的には昭和47年に閉山)が、ベンガラは昭和40年代まで生産が続きました。

吹屋の町並みが街道沿いにできたのは江戸時代中期以降と考えられ、東側の下谷地区が初めに開かれ、その後、西側の下町、中町、千枚地区が発展したようです。間口の大きい町家はベンガラを生産した豪商の家で、瓦は赤褐色の石州瓦、土壁には地元の赤土が使われ、格子もベンガラで塗られており、赤い色が印象的な町並みとなっています。岡山県のふるさと村に指定されているほか、歴史まちづくり法に基づく重点地区にもなっています。

旧片山家住宅(国指定重要文化財)は、江戸時代にベンガラの製造販売を手がけた吹屋を代表する商家の家屋で、主屋は18世紀末に建てられ、ベンガラ豪商の屋敷構成が良く残されています。



農村・漁村の景観

はっとうじ 八塔寺

よしなが かがみ
(備前市吉永町加賀美)

J R山陽本線吉永駅から20キロメートルほど北へ進むと、天台宗の寺院八塔寺を中心に開けた山村があります。山岳仏教が盛んであった八塔寺山の麓の傾斜が緩やかな、標高約400メートルの場所に寺院や古民家からなる集落が広がっており、岡山県のふるさと村に指定されています。



周辺図



こしはた 越畑

(苫田郡鏡野町越畑)

鏡野町北部、香々美ダムのそばに位置する越畑地区(地元では「こしわた」と読むそうです。)は、かつては「たたら製鉄」が行われていた場所でした。たたら製鉄を紹介するたたら記念館があるほか、石畳の遺構も残されています。岡山県のふるさと村に指定されています。



おおこうげ 大高下

あば
(津山市阿波)



周辺図



津山市北部、旧阿波村の谷あいの山村が大高下地区です。いくつか残る茅葺屋根の古民家と、谷間に広がる緩やかな斜面を利用した田畑、自然豊かな溪谷が残されており、岡山県のふるさと村に指定されています。

えんじょう

円城 (加賀郡吉備中央町円城)

吉備中央町の中ほどに位置する標高約300メートルの高原上にある円城地区は、天台宗寺院円城寺の門前に開けた門前町で、岡山県のふるさと村に指定されています。円城寺本堂の東には、^{えんぶん}延文2(1357)年の銘文のある宝篋印塔(県指定重要文化財)があります。境内にある提婆宮は村の鎮守で、本堂とともに弘化3(1846)年に再建されたものです。



円城寺

周辺図



用語解説

宝篋印塔…もとは宝篋^{だらにきょう}印陀羅尼經という經典を納めるための石塔



まなべしま

真鍋島 (笠岡市真鍋島)

笠岡諸島の真鍋島は、漁業と農業を生業の中心とする島です。映画「瀬戸内少年野球団」のロケ地としても知られ、のどかな風景が残る漁村は、岡山県のふるさと村に指定されています。源平合戦を平氏方として戦った真鍋氏の屋敷跡と伝えられる場所には、^{そうづ}沢津丸の宝塔(まるでうさま 平安時代末～鎌倉時代初期 県指定重要文化財)が残されているほか、島の東部には五輪石塔群(市指定重要文化財)や真鍋城址(市指定史跡)もあります。港近くの真鍋家住宅は国登録有形文化財です。



周辺図



所在マップ



A 玉島 倉敷市玉島阿賀崎、玉島中央町	B 下津井 倉敷市下津井	C 矢掛 小田郡矢掛町矢掛	D 大原古町 美作市古町	E 新庄 真庭郡新庄村
F 倉敷市倉敷川畔 倉敷市阿知、中央、本町、東町	G 津山市城東 津山市橋本町、林田町、勝間田町、中之町、西新町、東新町	H 石火矢町 高梁市石火矢町	I 勝山 真庭市勝山	J 足守 岡山市北区足守
K 高梁市吹屋 高梁市吹屋	L 八塔寺 備前市吉永町加賀美	M 越畑 苫田郡鏡野町越畑	N 大高下 津山市阿波	O 円城 加賀郡吉備中央町円城
P 真鍋島 笠岡市真鍋島				

- 発行日 平成29年2月21日
- 発行 岡山県教育委員会
- 編集 岡山県教育庁文化財課
〒700-8570 岡山県岡山市北区内山下2-4-6 電話086-226-7601(直通)
- 協力 高梁市、岡山県古代吉備文化財センター、岡山県立記録資料館、岡山県立瀬戸高等学校、岡山県立博物館、岡山市立岡山中央小学校、岡山市立芳泉中学校